



写真1 スタート位置につく各校のコンクリートカヌー

土木系学生による コンクリートカヌー大会の 開催報告

2011年8月27日に第17回土木系学生によるコンクリートカヌー大会

(主催…関東支部、後援…国交省関東地方整備局、戸田市、日刊建設工業新聞社)が荒川調整池(彩湖)で開催された。本大会は、ものづくりの楽しさを学生に実感してもらうことを目的に毎年開催しているものである。今年は東日本大震災の影響が懸念され、東北・関東地方からも多数の参加があり、参加チーム数は大学・高専10校12チーム、高校23校28チーム、計40チームと過去最多と

なった。

本大会の総合順位はレース結果に技術資料の審査結果を加算して決定される。レースは、予選から準決勝までが直線2000mのコースで、決勝が折返しを含む3000mのコースで行われた。大会の結果は下記の通りである。

- ・総合優勝…宇都宮大学(栃木県)
決勝タイム2分56秒
- ・総合準優勝…横浜国立大学(神奈川県)
- ・総合3位…祐誠高校(福岡県)
- ・高校の部優勝…大曲工業高校(秋田県)
- ・技術賞…宇都宮大学、大曲工業高校
- ・特別賞…石巻工業高校(宮城県)
- ・特別賞…石巻工業高校(宮城県)

・敢闘賞…木更津高専(千葉県)
今大会は宇都宮大学の三連覇と津波の被害を受けた石巻工業高校の健闘などで例年以上の注目を集め、複数の新聞社やテレビ局の取材があり、学会や参加各校の取組みを広く知っていただく契機となった。詳細は関東支部ホームページ <http://www.jsce.or.jp/branch/kanto/>に掲載している。
(正会員 西恭彦(鉄道・運輸機構))

IGCP585第五回国際 海底地すべりシンポジウム の活動報告

IGCP585第五回国際海底地すべりシンポジウムは、近年注目されている自然災害である。海底地すべりによ

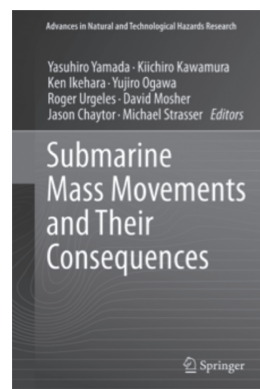


写真1 海底地すべり特集号 (Springer) 表紙

て、破壊的な津波が発生・増幅する可能性があり、海岸や沿岸の構造物や海洋土木構造物に被害を与え、人命を脅かす。最近、壊滅的被害を引き起こした海底地すべりの例として、1979年のフランス・ニース海上空港の建設に伴う崩壊、2006年のパプアニューギニアでの局所的大津波、2009年の台湾南西沖での海底ケーブル・ネットワークの切断事故などがある。2011年3月の東日本大震災でも、海底地すべりの影響が議論されている。

このような社会背景の中、2011年10月24日〜26日までの3日間、京都大学芝蘭会館にて、標記シンポジウムを行った。これは、国際地質学会とユネスコの共同プログラムIGCPの活動の一環であり、2年に1回行われている。土木学会にも後援いただいた今回のシンポジウムは、アジア地域で初めての開催となり、16の国と地域から、130名を超える参加者を得て成功裏に終了した。

このシンポジウムと併せて、海底地すべり特集号も刊行された。佐竹健治氏(東大地震研)をはじめ、海底における地質学、地球物理学、さらには地盤工学の国際的なエキスパートによって、海底地すべりの最新の科学的成果

が収録されている。土木学会会員にとっても、海底地すべりに関する貴重な情報源となるだろう。
(フェロー会員 亀村勝美(公益財団法人深田地質研究所))

第13回インターナショナル サマーシンポジウム開催報告

2011年8月26日(金)に京都大学宇治キャンパスにおいて、第13回インターナショナルサマーシンポジウムが土木学会国際委員会(委員長…上田多門・北海道大学教授)の主催で開催された。このシンポジウムは土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画されたものである。1999年から開催され、13回目となる今回は、2002年以来2度目の関西での開催となった。

今回のシンポジウムは、京都大学の二つのグローバルCOEプログラムアジア・メガシティの人間安全保障工学拠点、極端気象と適応社会の生存科学)から後援を受け、また公益信託「土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施された。

124名の参加者(外国人学生・エンジニア等75名、日本人学生・エンジニア等14名、組織委員会委員等35名)を得て、オープニングセレモニー、研究発表、基調講演、ならびに懇親

会が行われた。スタディー・ツアー・グラント
招聘者からの研究報告も行われた。シンポジ
ウムのプロシーディング掲載の論文について
は、全文査読が実施され、掲載論文は全部で
79編であった。

オープニングセミナーで、寶聲・京都大学
防災研究所教授(京都大学 GCOE プログ
ラム・極端気象と適応社会の生存科学の
リーダー)から挨拶をいただいた後、午前・
午後合わせて計19の一般講演セッションが行
われた。総発表数は77件であった。また午後
には基調講演が行われた。基調講演では、古
田均・関西大学総合情報学部教授(前土木
学会国際委員長)から、'Applications of
Soft Computing in Civil Engineering, &
ト
題する講演をいただいた。講演では、'ソフトコ
ンピューティング技術の構造工学や耐震工学へ
の応用という最新の話題に加えて、自身の



写真1 一般講演の様子



写真2 優秀発表講演者たち

海外での研究活動などについてもお話いた
き、参加者にとって大変興味深いものであ
った。また一般講演での発表においてはどのセ
ッションでも活発な議論がなされ、参加者の間
で有意義な情報交換ができたものと考えて
いる。

すべての研究発表終了後、参加者が一堂
に会した懇親会が催され、その中で優秀発
表講演者(受賞者は後述のとおり)に賞状と
記念品が授与された。懇親会では、世界のさ
まざまな文化、風習にまつわる楽しいゲー
ムも実施された。参加者同士の活発な交流に
よって、国際交流と相互理解はいつそう深め
られた。

●優秀発表講演者 19名(敬称略)

Rajendra Soti(東京大学)／Shanker Dhakal(愛
媛大学)／Rusnardi Rahmat Putra(京都大

学)／Sherliza Zaini Sooria(京都大学)／Sha
Lou(長崎大学)／Manojkumar Langhi(京
都大学)／Khoi Nguyen Dao(山梨大学)／
Nerunanda Sahu(京都大学)／Nguyen Hoang
Duc(首都大学東京)／Seto Wahyudi(東京
大学)／Deepak Raj Bhat(愛媛大学)／Mohsin
Usman Qureshi(東京大学)／Rama Mohan
Pokhrel(埼玉大学)／Mueyoshi Numada(東
京大学)／Esmail Mohamed Omer(運輸政策
研究機構)／Yong Wu(名古屋大学)／Usman
Akmal(横浜国立大学)／Yanjing Wang(名古
屋大学)／Xin Tian(名古屋大学)

(正会員 戸田圭一(京都大学防災研究所))

平成23年度スタディーツアー グラント報告



土木学会は公益信託土木学会学術
交流基金を活用し、スタディーツアー

グラント(Study Tour Grant, STG)として
毎年海外協定学会の推薦を受けた土木技術
者を日本に招聘している。今年度は土木工学
を学ぶ大学生4名を招聘した。来日したのは

マレーシアのMs. Chua Yie Sue、ネパールの
Ms. Sushma Chaudhary、フィリピン人のMs.
Anjerine Mae S. Guaniao、バングラデシュ
のMr. Md. Abdullaの4名である。

日本滞りは、8月21日から27日までの1
週間で、土木研究所、鹿島建設技術研究所、
早稲田大学などの研究・教育機関、大林組
が施工する湾岸船舶インターチェンジの建設
現場、また神戸では人と防災未来センターや
明石海峡大橋を訪問するなど、積極的に情



写真1 京都大学防災研究所にて

報の収集を行った。

ツアーの最後には、STG同様土木学会学
術交流基金の助成を受けて実施するイン
ターナショナルサマーシンポジウム(会場：京
都大学防災研究所)にて、日本での活動の結
果得られた知見、所感を発表あるいは自身の
研究など発表していただいた。

短い滞在期間であったが、わが国の土木事
業のスケールの大きさや土木技術の高さ、土
木国際教育の整備された環境を知り、強い印
象を与えたようである。将来の各人の活動の
範囲を広げる契機になることを期待すると
同時に、今後、各国の協定学会と土木学会
とのさらなる連携の強化につながることを願
いたい。

(正会員 和田一範(学術交流基金管理委
員会幹事長))

平成23年 秋の叙勲等受章者 (五十音順、敬称略)

叙勲



◎瑞宝中綬章

- ・飯島尚…フェロー会員 71歳
(元土木研究所長)
- ・石川信隆…フェロー会員 73歳
(防衛大学校名誉教授)
- ・今岡正美…終身会員 79歳
(山梨大学名誉教授)
- ・植下協…名誉会員 79歳
(名古屋大学名誉教授)
- ・河野清…名誉会員 78歳
(徳島大学名誉教授)
- ・櫻井春輔…名誉会員 75歳
(元広島工業大学長)
- ・藤本一男…フェロー会員 72歳
(元技術研究本部第4研究所長)
- ・柳川捷夫…名誉会員 73歳
(元北海道開発局局長)
- ・吉川和広…名誉会員 81歳
(京都大学名誉教授)
- ・渡辺昇…名誉会員 83歳
(北海道大学名誉教授)
- ◎瑞宝小綬章
- ・稲場紀久雄…正会員 70歳
(元土木研究所下水道部長)
- ・太田利隆…名誉会員 72歳
(元北海道開発局開発土木研究所長)

- ・永尾勝義…名誉会員 79歳
(元国鉄建設局長)
- ◎瑞宝双光章

- ・板橋正光…正会員 70歳
(元中部地方建設局岐阜国道工務所所長)
- ・新庄興…正会員 71歳
(元北海道開発局石狩川開発建設部次長)

褒章

◎黄綬褒章

- ・窪田義弘…正会員 65歳
(窪田工業社長)
- ・中村啓…正会員 62歳
(シグマ技研代表取締役)
- ・福田光一…正会員 64歳
(大福コンサルタント社長)

CE CIVIL ENGINEERING REPORT レポート

投稿を受付けています

CEレポートは、「プロジェクトの内容や技術、研究、教育など、土木に関する広範な話題を対象とし、土木技術者に役立つ情報を紹介していく」という基本姿勢の下に以前からの企画である「プロジェクトレポート」・「技術最前線」を統合し、さらに話題性のあるレポートを追加する形で2005年4月から始まった企画です。ここで紹介されるものは、すべて皆様からの投稿によって成り立っています。2008年までは、内容によって「CEレポート話題(わだい)」・「CEレポート技術(ぎじゅつ)」としてきましたが、2009年からは区分を外し、読者にとってわかりやすい読み物というスタンスで掲載しています。

詳しくは、ホームページをご覧ください <http://www.jsce.or.jp/journal/>